

肝疾患早期診断のための ImmunoMS検査システムの研究開発

企 業／株式会社 M C B I

研究者／白木 克哉（三重大学 医学部附属病院）他

ウイルス感染が原因の慢性肝疾患は、感染後10年以上を経て肝炎から肝硬変へ移行し、さらに15年以上で肝がんに進む。肝がんは30歳から65歳までの働き盛りの人の死亡原因のうちの4番目にあり、国民病ともいえる恐ろしい病気であるが、早期に診断できるなら、適切な治療によって多くの患者を救うことができる。

このような肝がんの早期診断を目標として、質量分析を用いた血清中のペプチドバイオマーカーの検査キットを試作し、肝がんを慢性肝炎・肝硬変から鑑別診断する方法を開発した。このキットでは、診断に用いる血清は200マイクロリットル以下という非常に少ない量で済み、感度と再現性も優れている。実際の臨床サンプルである患者血清を用いて、診断における有効性も証明した。

他のいくつかの新しく見出したペプチドバイオマーカーについても検査キットを作製する予定である。



▲図：ImmunoMS検査キット